

新 あさけのいにしへ

No.3

三重県埋蔵文化財センター

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503

TEL 0596-52-1732 FAX 0596-52-7035

<http://www.pref.mie.jp/MAIBUN/HP/>

四日市整理所

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町 126-1

TEL 059-363-3195 FAX 059-363-3196

伊坂城跡を発掘調査しています



今回の調査を行っている所



大きな重機が活躍します



斜面での作業の様子



斜面を削って遺跡の確認をする作業

新名神高速道路の建設にともなう伊坂城跡^{いさかじょうあと}の4回目の調査が、10月下旬から本格的に始まりまし
た。伊坂城は、朝明川北岸の朝日丘陵^{あさひきゅうりゅう}にあり、城が丘陵全体にひろがって、北の最も高い場所に主郭^{しゅかく}
があります。谷が堀^{ほり}の役目を果たすなど、自然の地形をうまく活用した城です。今までの調査から、
小さな屋敷地^{やしきち}がたくさんあることがわかってきました。

また、前回の調査では、城ができるよりもっと昔の土器や建物などが見つかりました。

この城跡付近では、弥生時代^{やよいじだい}や古墳時代^{こふんじだい}から人々が集落^{しゅうらく}を作って住んでいたことが、周囲の遺跡か
らもわかってきています。

今回は、尾根^{おね}の中腹部を調査しています。山の斜面を削ったりするなど、990㎡を調査しています。
どんなことがわかってくるかが楽しみです。調査の結果は、「調査ニュース」などを通じてお知らせし
ていきます。

ほほにし
保々西城

四日市市西村町字城下・谷口

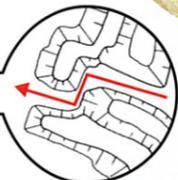
県営北勢中央公園野球場の南側、丘陵が舌のように突き出した先端部分に築かれています。この城は、市場城や中野城とともに、朝倉氏一族のものとして伝えられています。北勢でも最大級の中世城館で、土塁や堀などがよく残っています。



南東方向から見た保々西城。背後には藤原岳や竜ヶ岳が見えます。



保々西城跡郭配置図（『四日市市史』より）



東側の虎口拡大図



アーリーちゃん

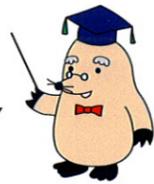
モグ博士！

保々西城のお堀ってすごく深くて、びっくり。このお城を作ったっていわれている朝倉一族って、さぞかし強かったのね。

そこじゃがの、アーリー、いま残る保々西城の姿は、朝倉氏の時代のものとは限らんぞ。

城の内部にきれいに並んだ屋敷の区画があることや、主郭の東側の入り口（虎口）が直角に折り曲げられて侵入しにくくなっておる構造などは、16世紀後半のお城にみられる特徴なんじゃ。

保々西城は、信長がこの地を支配した以降に、改修された可能性もあるのう。



モグ博士

あさけ ちゅうせいじょうかん
朝明川流域の中世城館

「中世城館」とは、鎌倉時代～戦国時代に築かれた城で、江戸時代の城のような壮麗な天守閣や高い石垣などはありませんが、地域のいにしへの姿をいまに伝える大切な文化遺産です。

第4次の発掘調査が始まった伊坂城をはじめとして、朝明川流域の丘陵上には中世城館が数多く残っています。朝明川とその南岸を通過して近江と北伊勢を結んだ街道（八風道）を見下ろすように建てられたこれらの城館は、室町時代（1392～1573年）に活躍した朝倉氏や伊坂氏、萱生氏などこの地の有力者たちのものと推定されています。

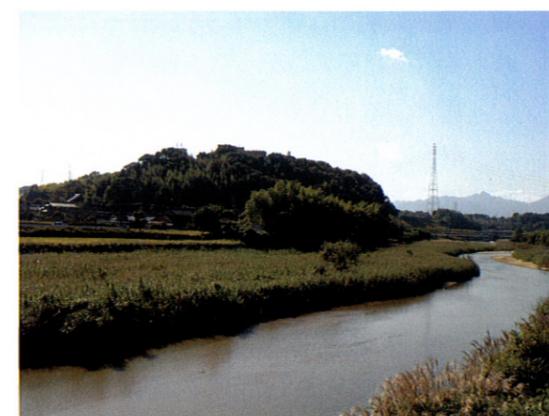
今回の調査ニュースでは、朝明川流域を代表する中世城館の保々西城と萱生城を紹介します！



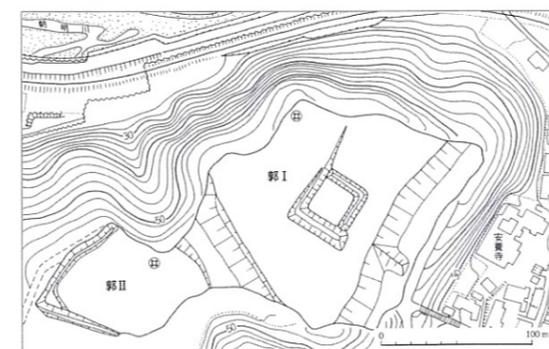
かよう
萱生城

四日市市萱生町字城山

朝明川南岸の標高55mの丘陵上に位置しています。現在は、暁学園の敷地となっており、その校舎建設によって城のあとはなくなり、「髪のびの井戸」と呼ばれる井戸だけが残っています。萱生氏の城と伝わります。



北東方向から見た萱生城。すぐふもとを通る八風道と朝明川を見下ろす絶好の位置にあります。



萱生城跡郭配置復元図（『四日市市史』より）



アーリーちゃん

萱生城の「郭I」の真ん中にある四角い跡って、何かしら？

戦国時代後半の北伊勢関連年表

～朝倉氏ら国人領主の時代から信長・秀吉・家康の時代へ～

織田信長の伊勢攻略 (1567～69年)

→のち北伊勢は信長配下の滝川一益領となる。

安土城完成 (1579年)

本能寺の変 (1582年) → 信長、配下の明智光秀に殺される。

賤ヶ岳の戦い (1583年) → 秀吉が信長次男織田信雄と結び、柴田勝家・滝川一益らを破る。北伊勢は信雄の支配下に。

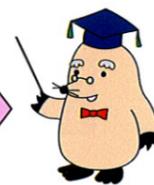
小牧・長久手の戦い (1584年)

→ 秀吉が徳川家康・信雄連合と開戦。伊勢も主戦場のひとつとなる。和睦成立。

これを、天守があった跡とする説もあるんじゃない。校舎が建ったいまとなっては検証できないがの。

じゃが、小牧・長久手の戦いとき、織田信雄側の武将がこの城に入ったとする文献もある。

いずれにしても、萱生城がこのあたり一帯を支配するうえで、重要な拠点であったことにはまちがいないのう。



モグ博士

発掘調査に関するQ&A



～モグ博士にきいてみよう～

Q 発掘調査によって見つかった土器などは、誰のものになるのですか？

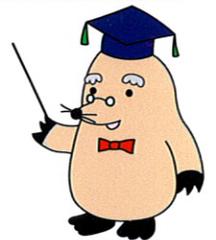
A 発掘調査で見つかった土器、金属類、木製品などは、どれも書類で警察に「落とし物」として届け出るのじゃよ。そして警察は、一定期間「落とし物」として扱うのじゃ。その後は、「文化財」として扱われるんじゃ～。つまり誰のものでもなく、国民の共有の財産になるというわけだよ。

Q 調査ニュースなどの写真の中には、遺跡を高い位置から写した写真がありますが、どのように撮影をするのですか？

A 遺跡全体の情報を一枚の写真に納めたいときには、高い位置から撮影するのじゃ。鉄パイプを組み立てた「タワー」の上から写真を撮ったりするんじゃ～。わしも何度も上って、写真を撮っておるぞ。さらにもっと高い位置から撮影したい場合には、「ラジコンヘリ」にカメラをのせて撮影するのじゃ。このような「ラジコンヘリ」を使った撮影を「空撮」と呼んでおる。



この写真が、遺跡を写すためにラジコンヘリを飛ばしている写真だよ。わかったかな。



Q 調査によって見つかった遺跡がいつの時代のものかは、どのようにしてわかるのですか？

A いつの時代の遺跡かを知る手段はいくつかあるがのお～。代表的なものを紹介してみよう。まずは、その遺跡で見つかった土器などじゃよ。「縄文土器」や「弥生土器」などとよばれておるように、土器の特徴から時代を探ることができるのじゃ～。また、木簡などから文字情報がわかることもあるぞ。ここに書かれておる文字などに時代がわかる年号などがあれば、比較的正確な時代がわかるからのお。他にも、文献や建物跡、他の遺跡との関連などからも時代を探ることもあるのじゃよ。

編集後記

今回の調査ニュース「新あさけのいにしへ」は、伊坂城跡調査の再開にともなって、お城を中心に編集してみましたがいかがでしたか。なお発掘調査は、中野山遺跡（北山町）などでも始まっています。順次、多くの方々にわかりやすいニュースを発信していきたいと思ひます。